

水産業振興功労者を認定

垣原さん(国富)海・川名人

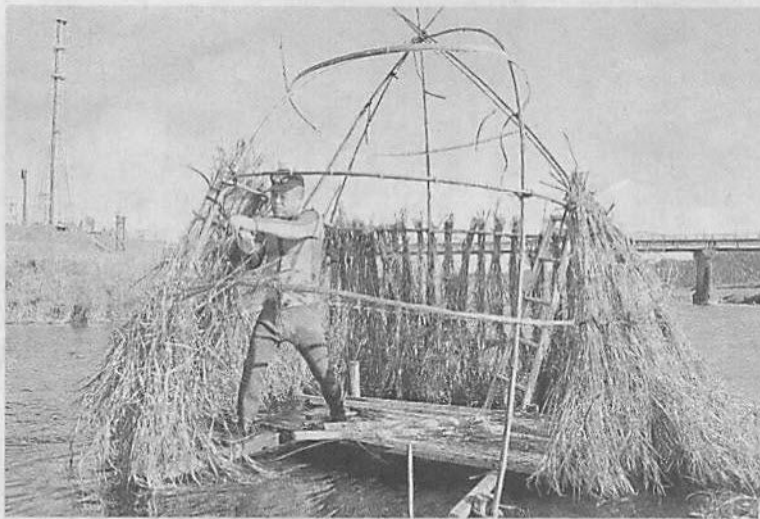
海や川に関わる知恵や技術を継承し、地域の水産業の振興などに努めてきた人を認定する「海・川の名人」に国富町本庄、会社役員垣原利彦さん(77)が県内で初めて選ばれた。垣原さんは半世紀ほど途絶えていた伝統漁法「アバ漁」を17年前に



復活。現在も同町の本庄川で続けており、「秋の風物詩になった漁を今後も続けていきたい」と話している。認定は海や川での優れた技を次世代に残していくことと、農林水産省や全国内水面漁業協同組合連合会などが2011年度から始めた。漁協や、水産業関連の

伝統「アバ漁」復活、継承

業務に携わる行政などからの推薦を受け、学識経験者らで構成する選定委員会が審査。本年度は全国約50人の候補者から、垣原さんの含む33人が選ばれた。アバ漁は川を下るアユを狙って10〜12月に行う。川



約10日間かけて今年も本庄川にアバ漁の小屋を作った垣原さん。漁は来週から始まる

に竹を数本束ねたせきを作り、その真上に骨組みの竹をヨシで覆った円すい形の小屋(高さ約3尺、直径約2・5尺)を設置。小屋の真下のせきに幅1尺の穴を開け、そこを抜けてきたアユのほか、フナ、ボラなどを網ですくい上げる。小屋は大人2人が座れるようになっていて、ヨシで覆うのは人の気配を消すため。全国でも珍しい漁法という。

垣原さんによると、かつては本庄川に数カ所のアバ漁を行う小屋があったものの、漁師の高齢化や減少で約50年途絶えていた。伝統的な漁法を復活させて地域おこしにつなげようと、垣原さんら地元有志6人が1998年に漁を復活。今年も19日にほぼ完成し、来週から漁を始める。

垣原さんは「好きだからこそ続けてこられたが、認定に責任も感じる。高齢で作業が難しくなった仲間もいるので、若い後継者を探して、次の世代に引き継いでいきたい」と話している。

(山下仁志)